



100年前の原始性が感じられる森林を復活させよう

# ニュースレター

野幌「森林づくり塾2015」

石狩地域森林ふれあい推進センター

TEL: 011-533-6741

FAX: 011-533-6743

## 第3回「森林づくり塾2015」を開催しました

### 野幌森林公園の菌類について勉強しよう



講師の  
NPO 法人 藻岩山きのご観察会理事長中田氏

秋晴れの10月17日(土曜日)、野幌森林公園内の菌類についての知識を深める事を目的にNPO法人 藻岩山きのご観察会 理事長 中田洋子氏を講師にお迎えし、第3回野幌森林づくり塾を開催しました。当日は、きのこ検定2級の資格をお持ちの官澤静雄氏もオブザーバーとして、参加していただきました。



きのこを探す塾生

午前中の講義では、森林の中の物質循環としての菌類の位置付けについて生産者として植物、消費者としての動物、動物が出す糞、死骸を分解する分解者としての菌類があり、「森の掃除屋さん」として、有機物を最終的に無機物まで還す役割を担っていること、さらにきのこが営んでいる生活様式は、寄生、腐生、共生のいずれかになることなどのお話がありました。その後、一つ一つのきのこの写真を見ながらその特徴を食用、毒、不明などに分類し、解説されました。

午後からは、実際に公園内のきのこを採取してみることにしました。(きのこのサンプル採取許可については、事前に公園事務所に確認済み)2班に分かれ、歩道沿いの笹の少ないところやトマツ人工林に入り、用意した買い物かごに採取したきのこを入れて行きました。きのこを採取するときはビニール袋にいれるのではなく、紙袋か、今回用意したような買い物かごに入れるのが、いいようです。



採取したきのこを早速、調べる



採取を終え、交流館へもどる塾生



採取したきのこの分類

採取したきのこは、ふれあい交流館の前庭で新聞紙の上に広げ、官澤氏に一つ一つ鑑定していただきました。その結果、50種類以上にもなり、鑑定終了後、官澤氏から特徴的なきのこについて、説明していただきました。きのこを何種類も覚えるのではなく、食用きのこを1つか2つ覚えるのが、きのこの種類を覚えるコツであるとの事でした。今回の塾は、昨年のアンケートで実施して欲しい、という要望のあった企画で、塾生も生き生きとして、この秋の森林づくり塾を楽しんでいたようです。

鑑定終了後、終了式を行い、塾生一人一人に藤生所長より修了証書を手渡し、来年もまた、皆さんに楽しんでもらえる塾を開催する、という結びの言葉で本日の塾を終了しました。

理事長の中田氏及び官澤氏におかれましては、ご多忙中の身でありながら、この塾の趣旨に賛同され、快く講師を引き受けてくださいました。この紙面を借りて御礼申し上げます。



鑑定したきのこについて説明されるきのこアドバイザー  
官澤氏